



平成 23 年 12 月 22 日 (木)

いよいよ平成 23 年が終わり、明日から冬休みです。日頃から本校の読み聞かせおよび図書室整備の活動にご協力をいただきありがとうございます。12 月 21 日の B グループの方が読んだ本の一覧を紹介します。ボランティアの皆様、くれぐれも体調を崩されませぬようご自愛いただき、良いお年をお迎えください。

21 日の読み聞かせで読まれた本

1 年 1 組	みっつのねがいごと	マーゴットツェマック	静かに聞いてくれました。よかった！
1 年 2 組	三びきのやぎのがらがらどん へびのクリクター とベバッタ	北欧民話 トミーウンゲラー 田島征三	静かに集中して聞いてくれました。3 冊で少し多かったです、楽しんでくれました。
2 年 1 組	おおどしのきやく	五十嵐七重	大晦日のことを昔の言い方でおおどしと言います。奥会津の言葉で語られています。楽しく昔話を感じていました。
2 年 2 組	ともだちや	内田麟太郎	静かに聞いてくれました。大型絵本なのでよく見えるし、楽しく読むことができました。
3 年 1 組	赤はなのトナカイ ルドルフ	とおやまうみひこ	誰でも知っている「赤はなのトナカイ」の歌がお話になっています。知っている内容でも静かに聞いてくれました。
3 年 2 組	すてきなプレゼント やきいもするぞ	またのあつこ おくはらゆめ	最初ザワついていましたが、読んでいくうちに聞いてくれるようになって良かったです。
4 年 1 組	バムとケロのもりのこや	島田ゆか	「バムとケロ好き」と言ってくれたのがうれしかったです。静かに集中して聞いてくれました。
4 年 2 組	The 12days of Christmas くろうまブランキー	ロバートサブダ 伊藤三郎	クリスマスが近いので、音楽をかけながらポップアップ絵本を広げました。英語の歌なので、内容を想像しながらきいてくれました。

読み聞かせボランティア研修

先日、申し込みました「読み聞かせボランティア研修」を小岩小学校でもしていただけることになりましたのでお知らせします。

日 時 … 平成 24 年 1 月 25 日 (水) 10 時から。 場 所 … 小岩小学校図書室

申し込みをした方は、忘れずにお集まりいただきますようお願いいたします。



読み語り
ボランティアのための
連続講座

11 月に行われた「読み語りボランティアのための連続講座」に参加された方が、内容をまとめてくださいました。プリントにして配布とますので、ぜひ、ご活用ください。

次の読み聞かせは、1 月 11 日 (水) です。C グループの方、よろしくお願ひします。

【連絡先】副校長 本庄 聡 TEL 3657-1078

読み語りボランティアのための連続講座 第一回 (2011/11/15@中央図書館)

講師：向井惇子氏 (1977年子どもの本の専門店「童話屋」立ち上げメンバー)

主催：江戸川読み語りネットワーク

(江戸川区で読み聞かせ活動をする人たちのボランティアグループ。昨年からは区内の学校を巡回して読み方の指導も行っている。)

読み聞かせのやり方はいろいろあるけれど、江戸川区では学校主導で朝の時間に読み聞かせることが多い。

何となく始めて、子どもが笑ってくれたり、「またあの本読んで」と言われたりすると嬉しい……これは、「役者と乞食は三日やったらやめられない」状態！ 落語などは大人向けの純粋な娯楽。子どもには???

<何のために読み聞かせをするのか？>

- ・ただの娯楽ではない。
- ・授業（「理解する」べきもの）ではない。
- ・本に親しみ、本の効用を身をもって知って欲しい……からでは？

どんな絵本でも何かを語っている。子どもはすべて吸収すると思って、選びましょう。

- ・その**内容**は？
- ・その**言葉**は？ ……よい日本語
- ・その**絵**は？ ……芸術的に美しく、物語に合った絵

読み聞かせの本は、その本を選んだ大人の価値観（哲学、美的感覚、人生観……）を表している。自分が「この世界を子どもと分かち合いたい」と思う本を選んでほしい。

<本の選び方（とくに最初の読み聞かせ向け）>

- ・子どもたちがこれまで育ってきた環境は様々→**だれでも楽しめるもの**
- ・**あたたかく、ユーモアのあるもの**
- ・1人のしっかりとした主人公がいて、（心理描写ではなく）**行動で話が進むもの**
- ・子どもたちがすでに**知っていても OK!**

自分で読むのと人に読んでもらうのは別／知らなかった子どもも物語を共有できる。

<読む前の準備>

- ・**何度もじっくり読む**。絵だけのページでもストーリーが進んでいたりするので、注意。
- ・黙読ではなく、必ず**声に出して読む**こと。できれば子どもに聞いてもらう。（意外な反応があるかも）

<最初に読む本として最適な絵本の例>

 <p>「おおきなかぶ」(福音館書店)</p>	  <ul style="list-style-type: none"> ・実は深い話。 ・他にも同じ民話の絵本がある（←）ので読み比べてみまると、言葉にも絵にも無駄がなく、質が高いことがよくわかる。
 <p>「三びきのやぎのがらがらどん」(福音館書店)</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・これも同じ民話のもの（←）と比較すると、北欧の自然描写の正確さ、三びきのやぎの描き（語り）分けなど優れている。 ・実は三びきのやぎは1人の成長物語と考えることができる。
 <p>「どろんこハリ」(福音館書店)</p>	<p>たわまない話に見えるが、子どもにとっては「親に自分を分かってもらえない」というところが怖くもある。安全なところに戻ってきて、また冒険に出るというテーマは深く共感できる話。「アンガスとあひる」もその点で似ている。</p>
 <p>「どうながのプレッシュェル」(福音館書店)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おさるのジョージ」シリーズの作者による絵本。

読み語りボランティアのための連続講座 第2回 (2011/11/22)

<読み聞かせの最初の頃からよい絵本>

「ひとまねこざるときいろいぼうし」
 「ひとまねこざる」
 「じてんしゃにのるひとまねこざる」
 「ろけっとこざる」
 「たこをあげるひとまねこざる」
 「ひとまねこざるびょういんへいく」 ※すべて「大型絵本」



・好奇心旺盛なジョージの姿に、子どもが共感できる。温かい話。

・H. A. レイの絵が、ジョージを生き生きと描いている。

注意！



「岩波の子どもの本」シリーズは、戦後の物資不足の中で出版された変形版。今でも販売していて、安いのは魅力的だけど、本来の大きいサイズのを買って！



「H. A. レイ原作」となっているシリーズは、ジョージの普遍的な人気を利用してレイの死後出された商業的なもの。ジョージが生気に欠ける。

「こねこのぴっち」(大型絵本) ハンス・フィッシャー (岩波書店)



- ・「たんじょうび」(福音館書店)の続編。
- ・大人も子どもも持っている「別の自分になりたい」という気持ちに共感できる。
- ・それぞれの動物が個性豊かに描かれている。
- ・余白がある絵で、明るく、のびやかな清潔感がある(この絵本も「岩波子どもの本」版がある→が、小さくなっているのでこの特徴が失われている)
- ・字のない場面も描き込まれているので、ゆっくり読む。子どもが後でじっくり



ども
くり

見られるとよい。

「みんなのペロニカ」 ロジャー デュボアザン (童話館出版)



- ・作者は、「あひるのペチューニア」「ワニのクロッカス」など、農場を舞台にした絵本をたくさん描いている。
- ・新入りを排除する心も、弱い者を助けたいと思う心も、みな持っている。人間の心の動きがよく描かれている。
- ・写实的ではないが誇張しすぎず、それぞれの動物の個性をよく描いている。

<3～4年生向けの絵本>

- ・本の楽しみが分かってくる年頃。 ・探偵もの、ナンセンスものに興味をもつ。
- ・自分で読もうという気が起きる年頃
- 読み聞かせた本を自分でも読めるように置いておいて。
- 自分でも読みたくなるような本を選ぶ！
- 読み手もよく読んで、好きになって、その本の魅力を伝えられるように！

「ペニーさん」 マリー・ホール・エッツ (徳間書店)



文章が長く、15分では読み終わらない。
 長い挿し絵が多いので、1人で読むにはおすすめ。

「月おとこ」「へびのクリクター」など：トミー・ウンゲラー



- ・ナンセンスといえばこの人！ おもしろい。
- ・主人公が、へび、タコ、コウモリ、人食い鬼……
- ・黒っぽい画面が多い。

向井さんに Q&A

Q. 『どろんこハリー』の「石炭」など、なじみのない言葉は説明すべき？

A. 子どもは知らない言葉も推察できるので、説明はいらない。よい絵本であれば、絵やストーリーに推察するためのヒントがあるはず。昔話にも、「はたおり」や『さるかに』の「いろり」など、子どもが知らないものもよく出てくるが、説明しなくて大丈夫。そのうち実物が分かったときの嬉しさもある。

Q. 「こじき」などの差別語はそのままでいい？

A. そのことばが使われていたという事実があるのだから、そのままでいい。

Q. クラス担任の先生が主導していて、自主的な集まりや勝手な活動はしないでくれと言われる。図書担当の先生も全く関心を持ってくれない。

A. 学校ごと、校長先生ごとにやり方はバラバラなので、臨機応変に「うまく」やってください！ とにかく良い本を読むこと。ただ、全体で（少なくとも同学年の担当の方達で）交流を持った方がいい。本の質があまりに偏らないように。あと、図書室を整備するのも大事なことです。

Q. 低学年に15分の本は集中力が持つもの？

A. 最初の最初は短い方がいいが、ジョージなど適切な本なら1年生でも十分聞ける。
(読み語りの会の方から補足) すごく暑いとか、特別な時間の前など、子どもたちが明らかに集中力を欠いている日もあるので、15分のもので、短めのを二冊用意していくといい。

Q. 方言の本は、方言を正確に再現できないが、いいのか。

A. 昔話にはよくあるが、イントネーションが正確でなかったり、分からない単語があったりしても、書いてあるそのままを読めばいいでしょう。

Q. 先生が子どもに感想を言わせるのはどうか？

A. 先生は、せっかく来てくれたお母さんにサービスしてあげたいと思って「ありがとうございました」と言わせたり、感想を言わせたりするのだと思う。「子どもたちの表情を見て楽しんでくれているのが伝わりました」など言っていて、そのようなサービスは必要ないということを伝えて。

読み語りボランティアのための連続講座 第3回 (2011/11/29@中央図書館)

<昔話について>

- ・昔話は、絵本で良い物はなかなかない。
- ・著作権があるわけではないので、文章化する人によって内容が違う。
- ・方言のままのもの、標準語に訳したもの、方言と標準語を取り混ぜたものがある。

絵本として薦められるもの：

「三びきのやぎのがらがらどん」(1回目に紹介した)

「ろばの王子」バーバラ・クーニー絵、

文字だけのもの：

……ある程度お話に慣れてきた子なら、文字だけでも大丈夫！

「岩波おはなしの本」シリーズ「まほうの馬」(ロシア民話集)

「日本昔話百選」稲田 浩二・稲田 和子(三省堂)

・ひとつ読んで、「他にもたくさん面白いお話が入ってるよ」と紹介するなど、自分で読めるように。

・たとえば「つるによぼう」：オノマトペがきれいで、情景が目に見える。同じお話でも、他(例えば岩波書店「てのひらむかしばなし」シリーズの絵本「つるのおんがえし」と聞き比べてみると、内容も日本語のよさでも違いは大きい。



<その他の高学年(お話に慣れてきた子)向けの絵本>

「ロバのシルベスターとまほうのこいし」ウィリアム・スタイグ(評論社)

・自分以外の誰かになりたいと思ったり、現状に不満を感じて家出しようとしたり……といった揺れ動く子ども心と、子どもがいなくなったときどれほど親が心配するかという実は深刻なテーマを、ユーモラスな語り口で描いたすごい本。

・いじめ、家族の問題、反戦など、「社会的」な問題をじかに扱って情に訴えるような絵本は分かりやすいが、将来的に意味があるかは疑問。さりげないユーモアのある楽しい本から、自分と他人への信頼感を育てるほうが大事では？



「あおい目のこねこ」エゴン・マチャーセン(福音館書店)

- ・差別に負けないこねこの強さが気持ちいい。
- ・絵もおもしろいし、章立ての作りも工夫されていて面白い。

「かあさんのいす」「ほんとにほんとにほしいもの」「うたいましようおどりましよう」



ベラ・B. ウィリアムズ
(あかね書房)

同じ主人公の女の子で、実は続きものになっている。

・絵がとても丁寧に細かく描かれている。文章の下にも絵があり、それぞれちゃんと内容に合ったものが描かれている。読み聞かせた後にはぜひ自分で読めるようにしてほしい本。

・貧しい母子家庭だということが見て取れるが、近所とのつながりなど、温かさにあふれている。

<まとめ>

- ・大事ななのは、よい本を選ぶこと。よい本であれば素直に読むだけ。パフォーマンスに陥らないこと！
- ・目標は、子どもが自分で本を読むことだということを忘れない。本を紹介する人は、子どもが人生に迷った時、本という人類の財産を利用する入口を用意するという大事な役目を担っています。
- ・図書室も、よい本を選んで置くことが大事。「子どもの読書は石に刻まれる」という。
- ・本当は司書が必要。(お母さんの限界もある。選挙にも行きましょう……)